



地域の魅力をデジタルで拡大。
共生する、地域とデジタルの共鳴が
新たなフードマネジメントを創造する。

数理・データサイエンス・AI教育及びフードマネジメントメソッドを修めた管理栄養士を養成します。

デジタル生活学部

フードマネジメント学科

学位：学士（栄養学）

2025年 4月 名称変更

“Society5.0時代を先導する大学”

 岡山学院大学

公式パンフレット2024

〒710-8511 岡山県倉敷市有城787
[TEL] (086)428-2651
[HP] <https://owc.ac.jp/>
[E-mail] nyushi@owc.ac.jp

問い合わせ：岡山学院大学 入試事務局

○デジタル生活学部フードマネジメント学科で養成する専門職人材について

デジタル生活学部フードマネジメント学科は、2030年問題、2040年問題に対応し高梁川流域圏などで活躍する**管理栄養士**を養成します。

1. **数理・データサイエンス・AI教育プログラム (MDA) 応用基礎レベル**を修得

2030年問題...少子高齢化や人口減少などの日本が抱える慢性的な課題が進行し、2030年ごろに表面化すると予測されている社会問題の総称です。例えば、「労働人口の減少」や「GDP（国内総生産）の減少」、「医療費の増加」、「社会保険の支出増加」など、人口の減少に係る問題は数多く内在しています。

2030年問題に対処するために、AIやロボット技術、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進などが不可欠であると言われています。

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度は、デジタル人材養成の登竜門として位置付けられており、人間生活学部食物栄養学科は、本プログラムのリテラシーレベルの認定を受け、2030年問題に対応できるようにカリキュラムを編成してきました。今後は、**本プログラム応用基礎レベルまで引き上げ、2040年問題に対応できる人材**を養成する機関として2025年度から本プログラムの応用基礎レベルを実施します。

2. **高梁川流域圏で活躍するための地域課題解決力を修得**

高梁川流域圏の市町は、倉敷市・新見市・高梁市・総社市・早島町・矢掛町・井原市・浅口市・里庄町・笠岡市で構成されています。高梁川流域圏の年少推計人口（0歳～14歳）は、2015年と比較した場合、2030年には23.7%の減少、2040年には30.1%の減少と予測されています。また、高梁川流域圏の生産年齢推計人口（15歳～64歳）は、2030年には9.7%の減少、2040年には21.3%の減少と予測されています。労働人口減少の課題は、高梁川流域圏成長戦略ビジョンにおいて最重要課題とされています。

人間生活学部食物栄養学科は、笠岡市の六島の魅力発信プロジェクト等のボランティア活動を通して、地域課題の解決に取り組んできました。より全学的に地域課題解決力を修得することができるよう、デジタル生活学部フードマネジメント学科では、**高梁川流域圏の地域課題を解決するための授業を実施します。**

3. **最先端のフードマネジメントメソッド**を修得

世界的な人口増加等による食料需要の増大や、SDGsへの関心の高まりを背景に、食品産業においても、環境負荷の低減など、様々な社会課題の解決の加速が求められています。また、健康志向や環境志向など、消費者の価値観が多様化しています。こうした多様な食の需要に対応し、社会課題の解決を加速するための、フードテックを活用した新たなビジネスの創出への関心が高まっています。

人間生活学部食物栄養学科は、ソサエティ5.0理解や栄養士基礎理解などの授業でICT×食・栄養の情報を提供してきました。より食環境について実践的な学習ができるよう、デジタル生活学部フードマネジメント学科は、食とベンチャービジネスやフード・ビジネス経営、フードテックと実践、食環境戦略イニシアチブなどの授業で最先端のフードマネジメントメソッドを令和7年度から実施します。

4. **価値を創造する対話型コミュニケーション能力**を修得

現代社会におけるコミュニケーションは、対話型コミュニケーションが基となっています。対話型コミュニケーションを実行するためには、自己理解と他者理解、調和の3つの観点が求められます。

人間生活学部食物栄養学科では、プレゼンテーションやアクティブラーニング、キャリアガイダンス、教学マネジメントなどの授業でキャリア形成と管理栄養士に必要なコミュニケーション力を培ってきました。あらゆるキャリアプランに対応ができ実践的な対話型コミュニケーション能力を修得することができるよう、デジタル生活学部フードマネジメント学科では、令和7年度からフードビジネス人材に特化したキャリアガイダンスを追加、実務家による実践的な対話型プレゼンテーション能力の修得をめざします。

学生の学習成果

本学で学ぶ学生の卒業時の学習成果は、建学の精神「教育三綱領」の基、自律した信念のある社会人となることである。数理・データサイエンス・AI教育及びフードマネジメントメソッドを修めた管理栄養士になるために、学科の教育課程（デジタル生活人材養成教育科目および専門教育科目）の学習をとおして、次の学習成果を獲得する。

I. 汎用的学習成果

デジタル生活人材養成教育科目の学習をとおして、
①消費者行動等の生活系学習や地域活性化メソッド等の高梁川流域事業学習から、高梁川流域圏市町で活躍するための**人間生活（ヒューマン・サービス）力**を獲得する。

②数理・データサイエンス・AI教育プログラム応用基礎レベルの学習及びキャリア実践学習を通して、デジタル生活社会の様々な困難や変化に対し、自ら枠を超えて行動を起こし新たな価値を生み出していく精神を身に付けた**フードマネジメント力**を獲得する。

③異文化コミュニケーション及び他者とのコミュニケーションメソッドの学習を通して、自ら計画し行動することができるキャリア的思考に基づいた**デジタル生活コミュニケーション力**を獲得する。

II. 専門的学習成果

学科の専門学習では、栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献する管理栄養士になるため、学科の教育課程の学習をとおして、専門知識と専門的能力を獲得する。

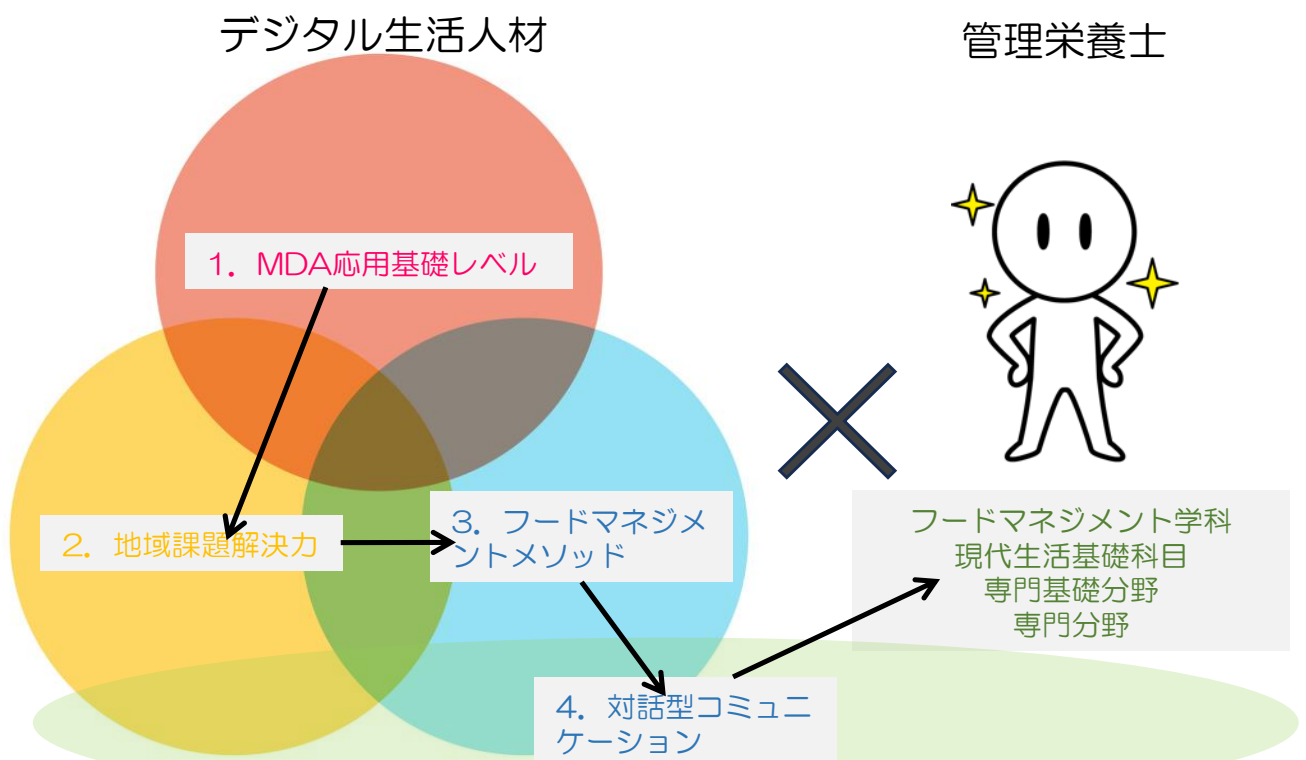
①多様な専門領域に関する基本となる栄養及び食、健康に関する専門的知識を獲得する。

②チーム医療の重要性を理解し、ステークホルダーとコミュニケーションを円滑に進める能力を獲得する。

③公衆衛生を理解し、栄養・給食関連サービスのマネジメントを行う能力を獲得する。

④健康の保持増進、疾病の一次、二次、三次予防のための栄養指導を行う能力を獲得する。

⑤子どもが将来にわたって健康に生活していけるよう、食に関する指導（学校における食育）をする能力を獲得する。



○卒業認定・学位授与の方針

学位：学士（栄養学）

栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献する管理栄養士になるため、デジタル生活人材養成科目および管理栄養士課程の専門教育科目の単位を修得し、学則に規定する卒業に必要な単位を修得した者に学位を授与する。

卒業を認める卒業生の学習成果は次のとおりである。

1. 学位授与に必要な単位を修得している。
 2. 卒業後社会人として求められる汎用的学習成果及び専門的学習成果を獲得している。
- 尚、単位認定は科目の成績評価を基礎として単位認定の教授会において、学習成果を基準に判定する。

○教育課程編成・実施の方針

数理・データサイエンス・AI教育及びフードマネジメントメソッドを修めた、高梁川流域圏で活躍する管理栄養士になるために必要な3つの力を汎用的学習成果として獲得させるデジタル生活人材養成科目にヒューマン・サービス科目、フードマネジメント科目及びコミュニケーション力科目を編成し、実施する。

管理栄養士課程として、栄養士の免許および管理栄養士の国家試験受験資格を得るための専門教育科目を編成し、実施する。

また、同時に「食品衛生資格履修コース」を専門教育科目の中に科目指定し、実施する。

栄養教諭一種免許状を得るための教職課程を編成し、実施する。

希望者に対して、フードスペシャリスト資格認定証、専門フードスペシャリスト資格認定証、図書館司書などが取得できるカリキュラムも編成し、実施する。

○入学者受入れの方針

本学に入学する人物には、次のような資質・能力を求める。

- ・ 栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献する管理栄養士の仕事を理解している。
- ・ 卒業後、管理栄養士として働く意思が強い。
- ・ **卒業後、高梁川流域圏でフードビジネスを通して活躍する意思が強い。**
- ・ **数理・データサイエンス・AI教育の修得意識が強い。**
- ・ 本学での学習に必要な一定水準の学力を身に付けている。
- ・ 生物、化学を基礎とする学習に努力できる。

次世代フードビジネス
アントレプレナー養成コース

卒業後のキャリア
キーワード

#管理栄養士 #起業家 #フードビジネス #高梁川流域圏で活躍



「フードビジネス起業家として高梁川流域圏の活性化を図る！」

様々な困難や変化に対し、自ら枠を超えて行動を起こし新たな価値を生み出していくアントレプレナーシップ精神を身に付けた次世代の管理栄養士「**フードビジネスアントレプレナー**」になり**高梁川流域圏の活性化に貢献する人材**を養成します。卒業後高梁川流域圏の市町で起業且つ所定のプロセスに則り審議を経て合格した者に対し、起業運営資金最大100万円を助成します。

ヒューマン・サービス科目	<ul style="list-style-type: none"> デジタル生活環境を基にした消費者行動における考え方を修める。 高梁川流域の活性化を図るための手法を修める。
フードマネジメント科目	<ul style="list-style-type: none"> 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの基礎力を修める。 情報数学から新たな価値を創造する力を修得する。 フードビジネス経営をするための実践力を修める。
コミュニケーション力科目	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスプランをプレゼンテーションする力を修める。 フードビジネスを実践するためのキャリア構成する力を修める。

目標	大分野	中分野	授業科目
ヒューマン・サービス科目では、生活系科目及び高梁川流域事業科目を設置し高梁川流域圏で活躍するための人間生活学を修得する。	ヒューマン・サービス科目	生活系科目	デジタル生活論 消費者行動論 日本国憲法 地域活性化論
		高梁川流域事業科目	高梁川流域圏の活性化（倉敷市連携授業） 高梁川流域圏の活性化と実践（倉敷市連携授業）
フードマネジメント科目では、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの応用基礎レベルであるデジタル系科目、数理系科目を設置、さらに、キャリア実践科目を設置し、データサイエンティストとして新たな価値の創造による食産業の発展と地域産業の活性化に貢献する力を修得する。	フードマネジメント科目	デジタル系科目	ICTリテラシーⅠ ICTリテラシーⅡ プログラミング データサイエンスⅠ データサイエンスⅡ データエンジニアリング 応用数学（食とビジネス）
		数理系科目	情報数学Ⅰ（統計学） 情報数学Ⅱ（線形代数・微分積分）
		キャリア実践科目	クリエイティブエコノミー（ファンの経済学） クラウドファンディングの理論と実践 食とベンチャービジネス フード・ビジネス経営 フードテックと実践 コンテンツビジネス 食環境戦略イニシアチブⅠ 食環境戦略イニシアチブⅡ 管理栄養士国家試験専門基礎分野集中ゼミ
コミュニケーション力科目では、外国語教育科目、コミュニケーション科目を設置し、キャリア的思考に基づいたデジタル生活コミュニケーション力を修得する。	コミュニケーション力科目	外国語科目	英語Ⅰ 英語Ⅱ
		コミュニケーション科目	体育理論 体育実技 プレゼンテーション 教学マネジメント キャリアガイダンス（フードビジネス人材） キャリアガイダンス（管理栄養士）

次世代フードビジネス人材養成コース

卒業後のキャリア
キーワード

#管理栄養士 #MDA応用基礎レベル #フードビジネス
#高梁川流域圏で活躍



「高梁川流域圏でフードビジネスがしたい！」

数理・データサイエンス・AI教育プログラムの応用基礎レベルを身に付けた次世代の管理栄養士「**フードビジネス人材**」を養成します。卒業後高梁川流域圏の市町にフードビジネス人材の正社員として3年間就業且つ所定のプロセスに則り審議を経て合格した者に対し、岡山学院大学キャリアプラン応援金として最大40万円を助成します。

フードビジネス人材とは：一般的には、フード・ビジネス・インデックス（経済産業省）に係る「食料品工業」、「食料品流通業」、「飲食店、飲食サービス業」に就業する者が該当します。本学では、フードビジネス人材を広義的に捉え、管理栄養士や栄養教諭などの専門職に就業する者も該当します。

ヒューマン・サービス科目	<ul style="list-style-type: none"> デジタル生活環境を基にした消費者行動における考え方を修める。 高梁川流域の活性化を図るための手法を修める。
フードマネジメント科目	<ul style="list-style-type: none"> 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの応用基礎レベルを修める。 情報数学から新たな価値を創造する力を修得する。 フードマネジメントの基礎力を修める。
コミュニケーション力科目	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスプランをプレゼンテーションする力を修める。 フードビジネスを実践するためのキャリア構成する力を修める。

目標	大分野	中分野	授業科目
ヒューマン・サービス科目では、生活系科目及び高梁川流域事業科目を設置し高梁川流域圏で活躍するための人間生活学を修得する。	ヒューマン・サービス科目	生活系科目	デジタル生活論 消費者行動論 日本国憲法 地域活性化論
		高梁川流域事業科目	高梁川流域圏の活性化（倉敷市連携授業） 高梁川流域圏の活性化と実践（倉敷市連携授業）
フードマネジメント科目では、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの応用基礎レベルであるデジタル系科目、数理系科目を設置、さらに、キャリア実践科目を設置し、データサイエンティストとして新たな価値の創造による食産業の発展と地域産業の活性化に貢献する力を修得する。	フードマネジメント科目	デジタル系科目	ICTリテラシーⅠ ICTリテラシーⅡ プログラミング データサイエンスⅠ データサイエンスⅡ データエンジニアリング 応用数学（食とビジネス）
		数理系科目	情報数学Ⅰ（統計学） 情報数学Ⅱ（線形代数・微分積分）
		キャリア実践科目	クリエイティブエコノミー（ファンの経済学） クラウドファンディングの理論と実践 食とベンチャービジネス フード・ビジネス経営 フードテックと実践 コンテンツビジネス 食環境戦略イニシアチブⅠ 食環境戦略イニシアチブⅡ 管理栄養士国家試験専門基礎分野集中ゼミ
コミュニケーション力科目では、外国語教育科目、コミュニケーション科目を設置し、キャリア的思考に基づいたデジタル生活コミュニケーション力を修得する。	コミュニケーション力科目	外国語科目	英語Ⅰ 英語Ⅱ
		コミュニケーション科目	体育理論 体育実技 プレゼンテーション 教学マネジメント キャリアガイダンス（フードビジネス人材） キャリアガイダンス（管理栄養士）

“Society5.0時代を先導する大学”

 岡山学院大学

デジタル生活学部
フードマネジメント学科

次世代管理栄養士養成コース

卒業後のキャリア
キーワード

#管理栄養士 #MDA応用基礎レベル #食環境戦略イニシアチブ



「食環境戦略イニシアチブの目標を達成する人材に！」

食環境戦略イニシアチブの目的を達成するための数理・データサイエンス・AI教育プログラムの応用基礎レベルを身に付けた次世代の管理栄養士を養成します。管理栄養士国家試験で140点以上を獲得且つ卒業後管理栄養士などの専門職として3年間就業した者に対し、岡山学院大学キャリアプラン応援金として40万円を助成します。

ヒューマン・サービス科目	<ul style="list-style-type: none"> 人間生活学を修める。
フードマネジメント科目	<ul style="list-style-type: none"> 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの応用基礎レベルを修める。 情報数学から新たな価値を創造する力を修得する。 食環境戦略イニシアチブの目標を達成する力を修得する。
コミュニケーション力科目	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスプランをプレゼンテーションする力を修める。 フードビジネスを実践するためのキャリア構成する力を修める。

目標	大分野	中分野	授業科目
ヒューマン・サービス科目では、生活系科目及び高梁川流域事業科目を設置し高梁川流域圏で活躍するための人間生活学を修得する。	ヒューマン・サービス科目	生活系科目	デジタル生活論 消費者行動論 日本国憲法 地域活性化論
		高梁川流域事業科目	高梁川流域圏の活性化（倉敷市連携授業） 高梁川流域圏の活性化と実践（倉敷市連携授業）
フードマネジメント科目では、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの応用基礎レベルであるデジタル系科目、数理系科目を設置、さらに、キャリア実践科目を設置し、データサイエンティストとして新たな価値の創造による食産業の発展と地域産業の活性化に貢献する力を修得する。	フードマネジメント科目	デジタル系科目	ICTリテラシーⅠ ICTリテラシーⅡ プログラミング データサイエンスⅠ データサイエンスⅡ データエンジニアリング 応用数学（食とビジネス）
		数理系科目	情報数学Ⅰ（統計学） 情報数学Ⅱ（線形代数・微分積分）
		キャリア実践科目	クリエイティブエコノミー（ファンの経済学） クラウドファンディングの理論と実践 食とベンチャービジネス フード・ビジネス経営 フードテックと実践 コンテンツビジネス 食環境戦略イニシアチブⅠ 食環境戦略イニシアチブⅡ 管理栄養士国家試験専門基礎分野集中ゼミ
コミュニケーション力科目では、外国語教育科目、コミュニケーション科目を設置し、キャリア的思考に基づいたデジタル生活コミュニケーション力を修得する。	コミュニケーション力科目	外国語科目	英語Ⅰ 英語Ⅱ
		コミュニケーション科目	体育理論 体育実技 プレゼンテーション 教学マネジメント キャリアガイダンス（フードビジネス人材） キャリアガイダンス（管理栄養士）

岡山学院大学の新しい取組

○岡山学院大学キャリアプラン応援金（次世代フードビジネス人材）

下記の事項に該当する者に対し、岡山学院大学キャリアプラン応援金最大40万円を助成します。

次世代フードビジネス人材養成コース

- ・ 卒業後高梁川流域圏の市町にフードビジネス人材の正社員として3年間就業
- ・ 所定のプロセスに則り審議し合格

○岡山学院大学キャリアプラン応援金（次世代管理栄養士）

下記の事項に該当する者に対し、岡山学院大学キャリアプラン応援金40万円を助成します。

次世代管理栄養士養成コース

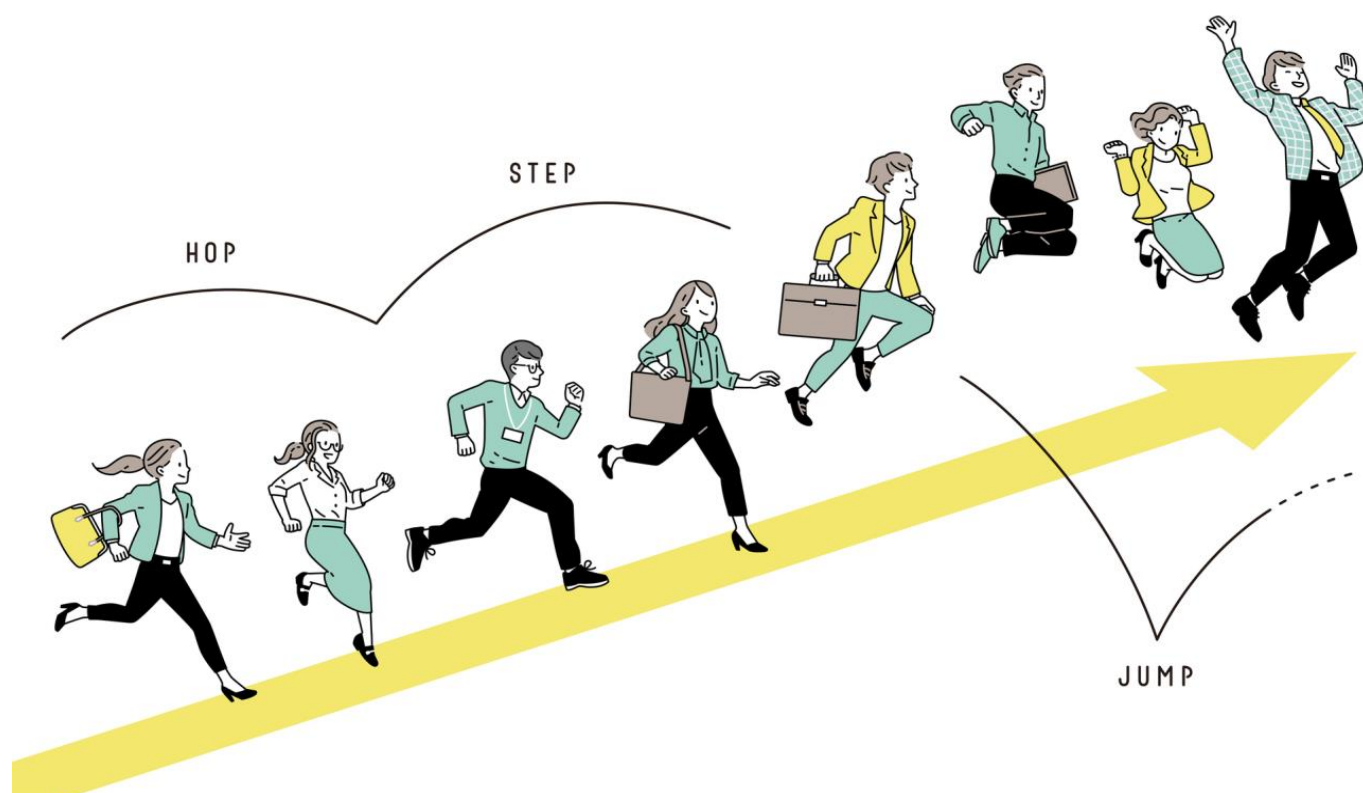
- ・ 管理栄養士国家試験で140点以上を獲得
- ・ 卒業後管理栄養士などの専門職として3年間就業

○起業運営資金

フードビジネス起業家として高梁川流域圏の活性化に貢献したい者に対し起業運営資金最大100万円を助成します。

次世代フードビジネスアントレプレナー養成コース

- ・ 卒業後高梁川流域圏の市町で起業
- ・ 所定のプロセスに則り審議し合格



卒業後のキャリアイメージ

倉敷市などの高梁川流域圏の市町で起業して、地域の活性化に貢献したい。

在学中、卒業後

次世代フードビジネスアントレプレナー養成コースの所定の単位を取得

所定のプロセス（起業計画書の作成、面接 等）

高梁川流域圏の市町で起業

起業運営資金
最大100万円助成

高梁川流域圏の市町でフードビジネス人材として活躍したい。

在学中、卒業後

次世代フードビジネス人材養成コースの所定の単位を取得

所定のプロセス（キャリアプランの作成、面接 等）

高梁川流域圏の市町にフードビジネス人材の正社員として3年間就業

次世代フードビジネス
人材
岡山学院大学キャリア
プラン応援金
最大40万円助成

食環境戦略イニシアチブの目的を達成できる管理栄養士として活躍したい。

在学中、卒業後

次世代管理栄養士養成コースの所定の単位を取得

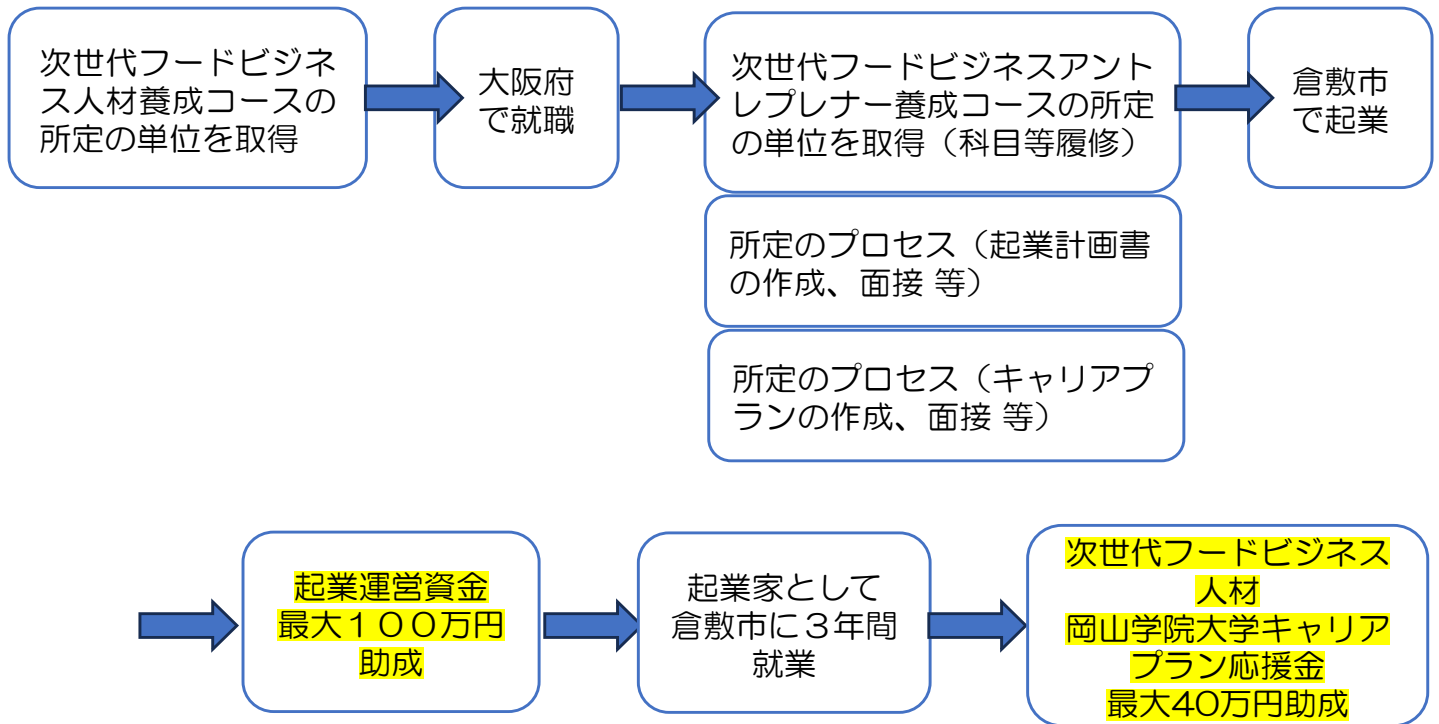
管理栄養士国家試験
140点以上

管理栄養士などの専門職として3年間就業

次世代管理栄養士
岡山学院大学キャリア
プラン応援金
40万円助成

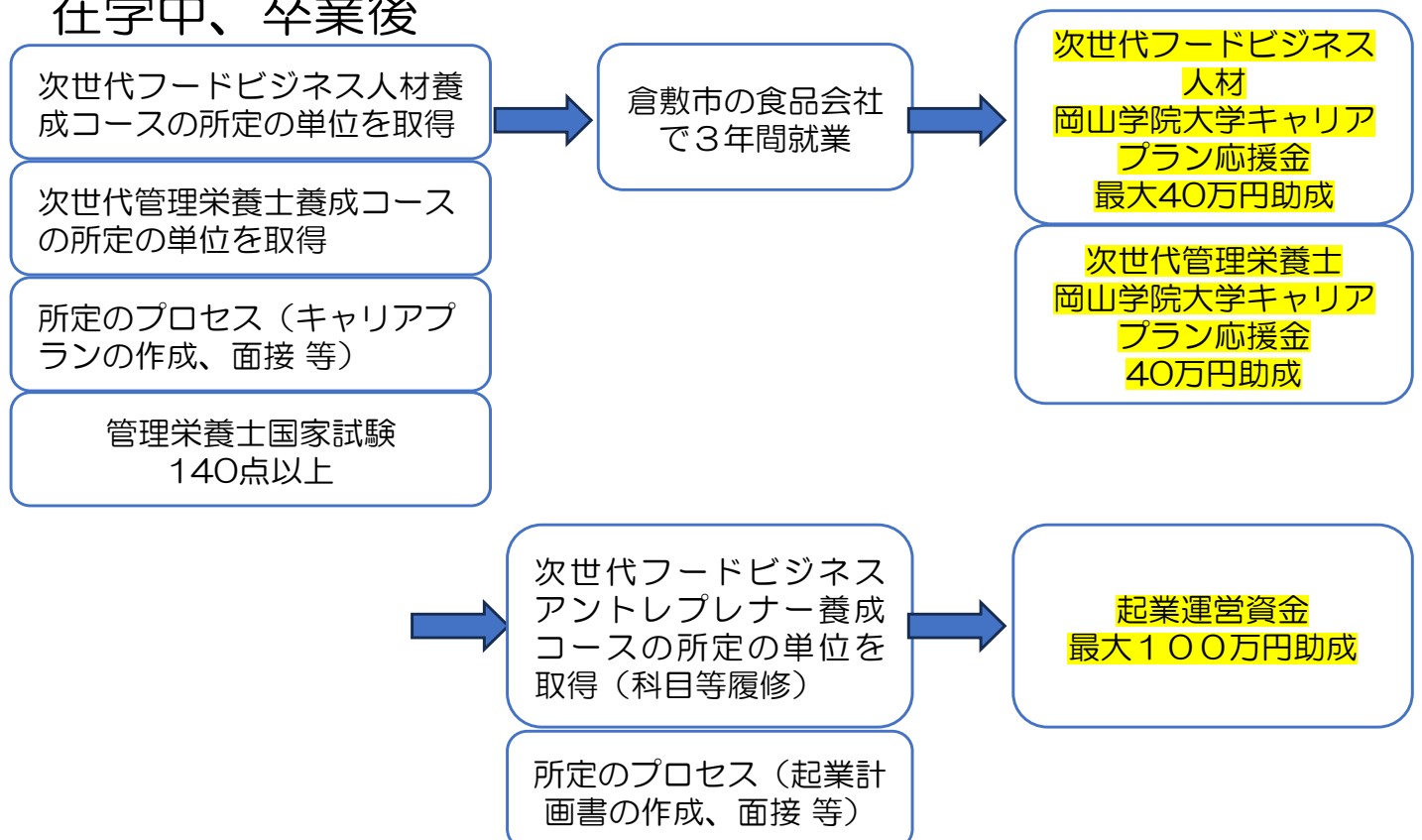
大阪府で働いてきたが、その経験を活かし倉敷市でフードビジネス起業がしたい。

在学中、卒業後



次世代フードビジネス人材養成コースと次世代管理栄養士養成コースに所属し、管理栄養士国家試験で140点以上獲得し倉敷市の食品会社で3年以上就職してきたが、その経験を活かし倉敷市でフードビジネス起業がしたい。

在学中、卒業後



デジタル生活学部フードマネジメント学科 Q&A

Q1 人間生活学部食物栄養学科からデジタル生活学部フードマネジメント学科に名称を変更をする理由を教えてください。

人間生活学部食物栄養学科の教育目標は、Society5.0社会の現場に即応でき、栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献できる管理栄養士を養成することです。

Society5.0社会の現場に即応する管理栄養士になるためには、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの知識は不可欠であり、令和3年度から同プログラムのリテラシーレベルの教育を実施しています。令和5年度には同プログラムリテラシーレベルの認定制度を申請し認定を受けました。

また、取得できる資格は管理栄養士国家試験受験資格の他に、栄養士免許、食品衛生管理者任用資格、食品衛生監視員任用資格、フードスペシャリスト、専門フードスペシャリスト、栄養教諭一種免許状、図書館司書、社会福祉主事任用資格と在学中に9つの資格を獲得できるため、卒業後は食の専門家として様々な方面で活躍しています。

受験生に対し、上記の教育目標、学生の学習成果、3つの方針を十分に示しているところでしたが、入学後にミスマッチが生じるなど、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの履修率は令和5年度申請時において29%と履修率100%を目指す学部学科にとって程遠い結果でした。現在の名称及び教育目標のままならば、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの科目の履修率の向上を図ることが困難です。

そこで、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの授業等の履修率の向上を図るために、受験生に対しミスマッチが生じないよう「Society5.0時代の現場に即応でき、栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献できる管理栄養士」という不明瞭の教育目標を明瞭にして、デジタル生活学部フードマネジメント学科と名称を変更し、「数理・データサイエンス・AI教育及びフードマネジメントメソッドを修めた管理栄養士」と教育目標をステークホルダーに対し明瞭にしました。

学部学科の名称を変更して、管理栄養士養成施設としての教育目標、学生の学習成果、3つの方針の内容は大幅に変わることはありませんので安心してください。

Q2 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（MDA）応用基礎レベルとは何ですか。

「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」とは、デジタル時代の「読み・書き・そろばん」である数理・データサイエンス・AIに関する、大学（短期大学含む）・高等専門学校の正規の課程の教育プログラムのうち、一定の要件を満たした優れた教育プログラムを文部科学大臣が認定／選定することによって、大学等が数理・データサイエンス・AI教育に取り組むことを後押しする制度です。数理・データサイエンス・AI教育（応用基礎レベル）の学修目標は、数理・データサイエンス・AI教育（リテラシーレベル）の教育を補完的・発展的に学び、データから意味を抽出し、現場にフィードバックする能力、AIを活用し課題解決につなげる基礎能力を修得します。自らの専門分野に数理・データサイエンス・AIを応用するための大局的な視点を獲得します。

Q3 在学中に養成コース全てに所属することはできますか。

在学中に全ての養成コースに所属することはできます。入学後のオリエンテーション期間で希望を確認し履修登録をします。また、在学中に養成コースを変更することもできます。

養成コースを修めた者は卒業と同時にディプロマサプリメントで備考欄に記入し証明します。

Q4 養成コースに所属せずに卒業することはできますか。

養成コースに所属せずに必要単位数を修めることで卒業することはできます。しかし、卒業と同時に起業運営資金や岡山学院大学キャリアプラン応援金を申請することはできません。

Q5 デジタル生活学部フードマネジメント学科の今後の方向性について教えてください。

今後の方向性として、情報処理教育センターをMDA（応用基礎レベル）を実施する専用施設として再整備し令和7年度より始動してまいります。

大学の紹介

目標を持って、夢を実現し、社会に貢献できる人材を養成します。



【建学の精神「教育三綱領（1924年制定）」】
「自律創生」
道徳心を備えた実践的な行動力を修得する。
「信念貫徹」
目標を達成する継続的な学びと努力を実践する。
「共存共栄」
社会人の基礎力を修得し進んで世界の平和に貢献する。

学部の概要

学部名学科名：デジタル生活学部フードマネジメント学科 【管理栄養士養成施設】
入学定員：40名

デジタル生活学部フードマネジメント学科（名称変更予定） 教育目標

数理・データサイエンス・AI教育及びフードマネジメントメソッドを修めた管理栄養士を育てるために次の教育目標を掲げている。

（「Society5.0時代の現場に即応する管理栄養士」の人材像を明瞭に！）

- ① 数理・データサイエンス・AI教育及びフードマネジメントメソッドを修めた、高梁川流域圏で活躍する管理栄養士の養成
（人間生活学部食物栄養学科の学生の学習成果の内容を集約した教育目標！）
- ② 生活習慣病の予防と改善に貢献する管理栄養士の養成
- ③ 疾病の予防や治療において栄養評価・判定に基づく高度な専門知識・技能による栄養指導及び栄養管理等に携わることのできる管理栄養士の養成
- ④ 豊かな人間性に富み、カウンセリングや福祉・介護分野の知識を修得した管理栄養士の養成
- ⑤ 食品技術系の企業で活躍する管理栄養士の育成
- ⑥ 学校における食に関する指導の目標、食に関する指導の全体計画、各教科等や給食における食に関する指導方法を修得し、管理栄養士として学んだことを学校教育の現場で生かすことができる栄養教諭の育成

学費

初年度納入金：129万円
（入学金：25万円、授業料：70万円、教育充実費：20万円、施設設備費：14万円）